



プログラム 2 “誰かと” “みんなと” つながるために 私たちができること！

実行主体：第3次能美市地域福祉活動計画 暮らし応援委員会
社会福祉法人能美市社会福祉協議会



日時：2月19日(土) 10時30分～12時

会場：ふれあいプラザ 第1会議室 *会場とオンラインのハイブリッド形式

参加者：会場 51名、オンライン10名

内容 令和3年度 地域福祉活動計画の暮らし応援委員会として、フードドライブを進めたことでつながった三道山子ども食堂や市国際交流協会、市母子寡婦福祉連合会などの様々な助け合いの取り組みの広がりや寺井高校 JRC 部の協力活動などを紹介しました。

今回、特定非営利活動法人プウブ 吉村久美子代表理事より、委員会の取り組みにアドバイスをいただき「私たちができること」に参加された方と考えました。そして、自分がしてもらって嬉しかったことが思い出として心に刻まれることで、自分が何かしてあげたい気持ちができることにつながることを確認しました。

支援の必要な人の暮らしを応援するためにも「手当(痛いところを手を当てる)＝地域とお医者さん(どうしても痛みがとれない時に診てもらふ)＝専門職」のように、地域住民と専門職がつながることの大切さを理解することができました。

今後に向けて

フードドライブで集められた食品が生活支援に役立てられていることを、市民や企業、団体等に、更に周知をしながら、新たに必要となるネットワークを拡大し、それぞれの強みや特性を活かしながら助け合う活動の取り組みを進めていきます。



特定非営利活動法人プウブ
代表理事 吉村 久美子氏より、
助け合いの事例をお話しい
たきました。



暮らし応援委員会の委員による助け合い活動の取り組みの
報告をしました。

参加者の感想（一部抜粋）

- ・フードドライブを通して、子どもへ大人へ、外国人へと様々な方と繋がっていることがわかった。もらうだけではなく、それぞれの役割があることがわかった。
- ・助けたり、助けられたり、常に双方向の関係ができれば良いと思った。
- ・アドバイザー（吉村さん）の話を聞いて、支援することが身近なことであることがわかり、日常につなげたいと思った。